

第2回 協同組合の地域共生フォーラム

～コロナ禍の地域共生社会と協同組合の可能性～

協同組合らしい地域ケア、地域共生を考えるフォーラムは2回目を迎えます。コロナ禍においても協同組合はその特性を発揮し、地域の人々の命、暮らし、健康を守り、支えています。今回はオンラインを活かし、医療・介護・地域の取り組みを現場の皆様とともに共有し、コロナ禍の地域共生社会に向けた協同組合の役割と課題を探ります。

日時 2020年10月24日(土)13時～16時30分 ※Zoomでのオンライン開催

13:00	開会・挨拶
13:10	基調講演 「協同組合らしいケアとコロナ禍における問題提起」 齊藤弥生・大阪大学大学院教授
13:30	実践報告(コロナ禍における医療現場での実践と課題を共有します) 報告①「コロナ禍における協同組合医療現場の実践」(南医療生活協同組合) 報告②「相模原協同病院 コロナとの闘い～住民の命を守るために～」(JA 神奈川県厚生連 相模原協同病院)
14:45	現場報告(現場からコロナ禍で地域を支える取り組みを報告します) 報告①「食と農をケアの土台にすえてーいのちを育む地域づくり」(ワーカーズコープふじみ野 そらまめ) 報告②「コロナ禍での介護現場の取り組み」(社会福祉法人静岡厚生会) 報告③「コロナ対応と組合員活動・介護事業の実際」(兵庫南農業協同組合) 報告④「生協から生まれた『島根のおたがいさま』活動」(地域つながりセンター(生活協同組合しまね)) 報告⑤「コロナ禍における介護現場の実際」(東京保健生活協同組合) 報告⑥「ショッピングモール型から専門小売店型の居場所づくり」(NPO法人ワーカーズ・コレクティブういず)
16:30	閉会

主催：(一社)日本協同組合連携機構 (「第2回協同組合の地域共生フォーラム」実行委員会)
<実行委員会構成団体>
日本生活協同組合連合会、日本医療福祉生活協同組合連合会、日本労働者協同組合連合会、ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン、全国農業協同組合中央会、全国厚生農業協同組合連合会、日本文化厚生農業協同組合連合会

後援：内閣府地方創生推進室、総務省、厚生労働省、東京都
(社福)全国社会福祉協議会、(公社)日本医師会、日本赤十字社、(社福)恩賜財団済生会、(公社)全国自治体病院協議会、(公社)国民健康保険診療施設協議会、(一社)日本慢性期医療協会、(一社)地域包括ケア病棟協会、(一社)日本公的病院精神科協会、(特非)日本 NPO センター、(一社)SDGs 市民社会ネットワーク、全国漁業協同組合連合会、全国森林組合連合会、全国労働者共済生活協同組合連合会、(一社)全国労働金庫協会、全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、(一社)家の光協会、(株)日本農業新聞、(株)農協観光、(一財)全国農林漁業団体共済会、全国大学生生活協同組合連合会、日本コープ共済生活協同組合連合会、(一社)全国信用金庫協会、(一社)全国信用組合中央協会、全国中小企業団体中央会、(一社)日本共済協会、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、労働者福祉中央協議会、日本協同組合学会

参加方法：Zoomによるオンライン

お申込み：<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/01dtvg115qutn.html>



【参考1】～基調講演者・コーディネーターのプロフィール～

大阪大学大学院人間科学研究科教授 ^{さいとう やよい} 齊藤 弥生 氏



学習院大学法学部卒業。スウェーデン国立ルンド大学修士(行政学)、大阪大学博士(人間科学)。

大阪外国語大学助手(スウェーデン現代社会論)、講師、助教授、大阪大学大学院人間科学研究科准教授を経て現職。専門は福祉社会論。

著書に『スウェーデンにみる高齢者介護の供給と編成』(大阪大学出版会 2014年)、共編著に『体験ルポ 日本の高齢者福祉』(岩波新書 1994)等がある。現在の関心は協同組合による介護と医療。

【参考2】～実践報告の概要～

1. コロナ禍における協同組合医療の現場の実践

(報告) 南医療生活協同組合

(概要) 2月29日、感染症指定医療機関ではない南医療生協(名古屋市)で入院患者の新型コロナウイルスの陽性判明。その後3人の患者も相次いで陽性が判明した。これらは院内感染ではないものの、現場が混乱に陥る中、南医療生協の組合員による患者を励ます活動、風評被害を防ぐための機関誌の配布などの取り組み、地域への迅速な情報公開によって難局を乗り越えた南生協病院の経験を共有する。

2. 相模原協同病院 コロナとの闘い～住民の命を守るために～

(報告) JA神奈川県厚生連・相模原協同病院

(概要) 相模原市内唯一の第二種感染症指定医療機関である相模原協同病院は、国内1例目の新型コロナウイルス感染者の入院を受け入れた。地域医療を守るという使命感で懸命に対応しているにもかかわらず、風評被害や診療控え等により患者数が減少するなど経営は悪化している。当病院の院長が最悪のシナリオを考えながら対応した日々を振り返るとともに、今後の医療制度への問題意識を提起する。

【参考3】～現場報告の概要～

1. 食と農をケアの土台にすえて一いのちを育む地域づくり

(報告) ワーカーズコープふじみ野そらまめ地域福祉事業所

(概要) 住民 70 人から資金を募り、太陽光発電のパネルを設置。利用者と地域の方々が、畑で野菜作りに精を出す「ともに働くデイサービス」。農と食を土台に据えたケアとエネルギーの自給など、コロナ禍の中でも FEC（食・エネルギー・ケア）自給循環する協同総合福祉拠点づくりを実践する。

2. コロナ禍での介護現場の取り組み～特養 厚生苑のこれまでの取り組みと課題～

(報告) 社会福祉法人 静岡厚生会

(概要) 40 年余前、全国に先駆け静岡厚生病院の附属の老人ホームとして計画し誕生した特養厚生苑®では、「この街でもっと向き合う。もっと寄り添う」をスローガンに活動している。一億総活躍と男女共同参画の下で厚生苑®働き方改革を実施、介護記録などの ICT 活用をはじめ介護スーツや移乗ロボットの導入等にも取り組んでいます。新型コロナウイルス対策では、早期の段階から対策本部を立ち上げ対応、行動指針の策定や受発注在庫一括管理や、職員と事業所間の拡散防止のためのゾーニングの徹底、産業医による管理下での職員の体調管理など各種予防対策を講じている。

3. コロナ対応と組合員活動・介護事業の実際～JAがあつて良かったと言っていただけのために～

(報告) 兵庫南農業協同組合

(概要) 有料老人ホームとサ高住・通所・訪問・居宅を運営しているJAで、コロナ禍における入所施設・通所・訪問の各介護サービスを継続するためにとつた対応策とJA本店における対応策を紹介する。また、地域からJAがあつて良かったと言ってもらえるために地域に対しどのような支援を行ったのか、普段からの支援と併せて報告する。

4. 生協から生まれた「島根のおたがいさま」活動

(報告) 地域つながりセンター（生活協同組合しまね）

(概要) 高齢化による高齢者の孤立など地域におけるくらしの問題が深刻化している。そのような中、多くの生協では地域の住民が担い手となった支え合いの有償ボランティアサービス「おたがいさま」などを手掛けている。仕事の内容は、家事援助、草むしり、買い物支援、話し相手などちょっとしたもので、活動を通じて希薄になっていた地域のつながりが蘇っている。

5. コロナ禍における介護現場の実際

(報告) 東京保健生活協同組合

(概要) 新型コロナウイルス感染症が広がるなか、濃厚接触者の定義が変わり、介護利用者の陽性が判明したにも関わらず、一部の職員がPCR検査を受けることができないという事態が発生している。「自分が感染を広げてしまうのではないか」という不安と隣り合わせにいる介護職員・介護現場の実態を紹介する。

6. ショッピングモール型から専門小売店型の居場所づくり

(報告) NPO法人ワーカーズ・コレクティブういず

(概要) 孤立を深め、生活に困難を抱える人が増えているコロナ禍で、改めて人と人を繋げ、パーソナルな要求に応えていく専門小売店型のコミュニティーの形成と居場所づくりに取り組む。